

## 私を作ったと胸を張って言えるものづくり

コクヨファニチャー株式会社 商品開発部 新谷英之

私は2008年3月に工学研究科機械工学専攻を修了しました。流体系の研究室に所属していた私の研究テーマは「C-CUP法を用いた多分散系粒子群に対する流体抵抗モデルの開発」。流れの数値シミュレーションを中心に3年間研究を行ってきました。大学院生活では当然研究活動が中心となりますが、私にとって大学院カリキュラムの中に今後の人生を決める二つの授業との出会いがありました。一つは、産業界から与えられた実製品の課題に対して長期的なグループワークを進めながら、解決策を提案するプロジェクト形式の授業、もう一つはイタリアでの短期留学プログラムへの参加です。この留学はものづくりの中でもプロダクトデザインに焦点を当て、本場イタリアでアトリエ見学などを交えながら学ぶというプログラムでした。この二つの授業を通じて、私はプロダクト、またデザインへの関心が高まり、就職先を考える際の大きな柱となりました。就職活動を経て、研究してきたことは全く違う分野へのチャレンジとなりましたが、私はコクヨ株式会社への入社を決めました。

コクヨは他のメーカーとは違い、採用時点では部門・職種をマッチングせずに採用します（当然採用過程である程度絞り込まれていますが）。商品開発希望の私は、ステーションナリ部門への配属を希望していました。これはものづくりをする上で、多くの人が日常触れるようなものが作りたいという一つの思いからで、コクヨという会社に興味を持った最大の理由でもありました。しかし、1ヶ月の研修を終えた私に告げられた配属先は、ファニチャー部門の商品開発。オフィス家具という考えもしていなかった部門への配属に、当初困惑したことを覚えています。コクヨの商品開発は「川上から川下まで商品に携わるものづくり」というのをキャッチコピーにしており、製品の設計はもちろん、企画からお客様への納品まで、一つの商品を最後まで見続けることができます。この商品は私を作ったと胸を張って言えるものづくりができること、このこ

とも入社を決めた大きな要因の一つでしたが、それを最も体感できるのはファニチャー部門であることを、のちに知ることになります。

配属初日、上司・グループメンバーへの挨拶もそこそこに、ある検討会議に参加することになりました。その年発売予定の新製品のモデルを関係部署のメンバーとともに確認する会議です。あれこれ説明する開発メンバーに、各部署の方がつぎつぎにダメ出しをしていく。各部署の目線から見つけた問題点を指摘されていきます。会議後、素人の私にも大きな方向転換がなされたことがわかりました。あわただしく協力工場に結果を報告し、個人のパソコンでは図面を変更していく。知らない単語ばかりで会議の内容も満足に理解できなかった私ができることと言えば、ただその様子を眺めることだけでした。この出来事は私にいきなり訪れた転換期でもありました。新人とはいえ、全く何もできない自分にとっても悔しい思いをし、早くメンバーの一員として少しでもサポートできるような実力をつけたいと思うようになりました。知らない用語の勉強、ものづくりのフローの理解、簡単な設計の知識など、とにかく聞く・調べることを積極的に行うよう心がけ、少しずつ内容が理解できるようになりました。

その後は設計を進めながらカタログ撮影、品質試験、価格調整、梱包仕様の検討、そして一部の納品立会いと業務を進めていきます。無事製品が立ち上がった後は、すぐに新製品の企画案出し。まさに「川上から川下まで」に恥じない仕事の広さを痛感しました。特にカタログ撮影に関しては、撮影レイアウトの検討や部材の手配、スタジオでの組み立て解体、全て開発主体で行います。社内の機械で削り出した樹脂パーツを自分で塗装したり、こんなことまで開発の仕事なのかと思うことが何度もありました。また、設計とひとくちに言っても、製品のコスト・強度・デザイン性など多くのことを一度に考えながら設計を進めるのは、非常に難しく、業務量としてはそれだけで相当なボリューム

ムです。しかし、良いアイデアを思いついた時の嬉しさや気に入ったデザインにまとまった時の気持ち良さは、本人にしかわからない満足感と喜びを感じます。

以上お話しした業務内容の一例からお解かりいただけたかと思いますが、商品開発は様々な部署からの要望を商品に落とし込むということで、非常に難しい立場に立たされています。厳しい意見をぶつけられることもしばしば。しかし、モノを自ら創り出すことのできる唯一の部署でもあり、この面白さは様々な困難を大きく上回るものであると、私は感じています。

さて、2年目を迎えた現在、少しずつではありますが設計業務をさせてもらえるようになり、ゼロからものを作り出す難しさと面白さを経験しながら、仕事を進めています。詳細はお話できませんが、今年冬発売予定の製品の中に、私が初めて一人で設計した製品が入る予定です。この製品は私が作ったのだと胸を張って言えるように、今日も開発業務を進めています。

(機械 平成18年卒 20年前期)

## 年会費納入のお願い

郵便振替による年会費会員の皆様には、毎年テクノネット4月号に払込取扱票を同封しておりますので、6月末までに納入いただきますようお願い申し上げます。未納の皆様には、テクノネット送付ごとに払込取扱票を同封することとなりますので、コスト削減の観点からのご協力をお願いいたします。

なお、2年間会費の納入がない場合は、会費規定により、会誌の送付が停止となりますのでご注意ください。

## 年会費会員の皆様へ会費免除規定のお知らせ

年会費会員の方は、卒業後50年を経過しますと会費規定第6条により「会費免除」となります。(会誌送付や諸行事への参加等は、今までと変わりありません。)

平成21年度は昭和34年卒業の皆様が免除となりましたが、この規定が適用されますのは、年会費を継続してお納めいただいている方となります。

特に50年を迎えられます前3年間に未納期間がありませんようご注意ください。

## 海外赴任または海外在住の皆様へ

海外にお住まいの終身会員の皆様には、エアーメールで会誌を送付させていただきますので、海外赴任されます場合は、必ず送付先をお知らせ下さい。なお、ご転居・ご帰国の際は、速やかにお届けいただきますようお願いいたします。

年会費会員の皆様には、誠に申し訳ございませんが、赴任後の会費納入が困難となりますので、終身会員への移行をお願いいたします。